

● リストの見方

● テーマ

著者『図書タイトル』（出版社、文庫・新書名）
所在 & 請求記号
教員からのコメント

● 学んで、知って、考える——「教養」って何？

1	池上彰『池上彰の教養のススメ 東京工業大学リベラルアーツセンター篇』（日経 BP 社）
	大岡山図書館B1F-一般図書 002/I 大岡山図書館B1F-「東工大先生の本」文庫 002/I すずかけ台図書館1F-ペリパトス文庫：和書 002/I すずかけ台図書館2F-「東工大先生の本」文庫 002/I
	池上彰さんが東工大リベラルアーツセンターの教授に着任したのが2012年のこと。この本はそれ以後のシンポジウムでの討論や、東工大の名物教授たちとの対談などが収められている。なぜ理工系の大学なのに「教養」が必要なのか。東工大生の素晴らしい点と弱点は何なのか？ ハーバード、MITなどの教養教育も紹介されている。「最先端のことだけを学んでも5年も経てば古びて使い物にならなくなってしまう。その時にさらに前に進むためには、文学や哲学、宗教といった何百年も古びない学問こそ大学の時に学んでおくべきなのです」というMITの教授の発言にはインパクトがある。対談形式で書かれているので、とても読みやすい本だ。

2	岡潔、小林秀雄『人間の建設』（新潮文庫）
	大岡山図書館B1F-一般図書 404/Ko（新潮文庫） 大岡山図書館B1F-一般図書 914.6/Ko/13（小林秀雄全集） 大岡山図書館B1F-一般図書 914.6/Ko/s1（小林秀雄全集） すずかけ台図書館2F-一般図書 404/Ko（新潮文庫）
	昭和を代表する文芸批評家と数学者による極めて示唆に富む創造的対話集。人間の精神的営為に関して縦横無尽に語り合い、その本質を見事に浮き彫りにする。感性や情緒が、知性や論理に優先・優越し、それらの根源になるという両者の基本認識は、現在の表層的な文理の差異を超越しうる普遍的な世界観として、これまで以上に重要である。

3	稲垣佳世子、波多野誼余夫『人はいかに学ぶか ――日常的認知の世界』（中公新書）
	大岡山図書館B1F-一般図書 141.3/I 大岡山図書館B1F-文庫・新書 081/Ty/907 ずずかけ台図書館2F-一般図書 141.3/I
	<p>人が学ぶとは、生得的な認知制約と、文化的な認知制約を受けながら、外部から伝達される知識を内的制約と照らし合わせつつ再構築していることや、学習者同士が影響し合うことなど、「学び」について多角的に解説している一冊です。</p>
4	梅棹忠夫『情報の文明学』（中公文庫）
	大岡山図書館B1F-一般図書 007.3/U（中公文庫） 大岡山図書館B1F-一般図書 007.3/U（中公叢書） ずずかけ台図書館2F-一般図書 007.3/U（中公文庫）
	<p>皆さんは、高校の情報科で何を学びましたか？ 情報を使いこなす上で大事なものは何か、技術的な理解を深めることと、情報の意味や価値、社会的影響を理解することと、どちらが重要なのかを考えるきっかけになればと思います。</p>
5	隠岐さや香『文系と理系はなぜ分かれたのか』（星海社新書）
	大岡山図書館B1F-一般図書 002/O ずずかけ台図書館2F-一般図書 002/O
	<p>自分は理系であると自負している人が多いでしょう。何かにつけて「理系だから」と誇ったり弁解したりする前に、理系と文系という枠組みがどのように生じたのか考えてみませんか。両者の違いを知ることと、対話のきっかけが生まれるかもしれません。両者の起源を知ることと、理系と文系という枠組みが消えた先の未来を考えるヒントが得られるかもしれません。</p>
6	サルマン・カーン『世界はひとつの教室——「学び×テクノロジー」が起こすイノベーション』（ダイヤモンド社）
	大岡山図書館B1F-一般図書 379.7/Kh ずずかけ台図書館2F-一般図書 379.7/Kh
	<p>The one world schoolhouse: Education Reimaginedの翻訳書です。いとこのための家庭教師から始めて、Khan academyというオンライン上の教育プラットフォームを立ち上げる過程の筆者の取り組みを知り、学びとは何か、テクノロジーが教育をどう変えるのか、学校教育のシステムはどうあるべきか、考えてみよう。</p>

7	<p style="text-align: center;">川喜田二郎『発想法——創造性開発のために』（中公新書）</p>
<p>大岡山図書館B1F-一般図書 301/Ka/1 大岡山図書館B1F-文庫・新書 081/Ty/136 すずかけ台図書館2F-一般図書 301/Ka/1</p>	
<p>現在は「KJ法」と呼ばれている研究方法について文化人類学が専門で東工大の教員だった著者が書いたものです。第1章は科学論になっていて、科学を「実験科学」「書斎科学」「野外科学」の3つに分けて「野外科学」の進め方を説いています。続編もあります。</p>	
8	<p style="text-align: center;">佐藤学『教師たちの挑戦：授業を創る学びが変わる』（小学館）</p>
<p>大岡山図書館B1F-一般図書 375.1/Sa すずかけ台図書館2F-一般図書 375.1/Sa</p>	
<p>子供たちが学び合う教室の風景。21世紀の世界で起きている授業の「静かな」革命。本書は、その具体的な姿を描き出す。初版は2003年。</p>	
9	<p style="text-align: center;">柴田義松『ヴィゴツキー入門』子どもの未来社（寺子屋新書）</p>
<p>大岡山図書館B1F-一般図書 140.2/Si すずかけ台図書館2F-一般図書 140.2/Si</p>	
<p>「アクティブラーニング」の本質は、学ぶ力をつけることであり、そのためには、学びそのものについて理解することが近道です。本書では、議論する力、そのベースとしての言語力の重要性についても考える機会が得られるでしょう。</p>	
10	<p style="text-align: center;">藤田英典『教育改革：共生時代の学校づくり』（岩波新書）</p>
<p>大岡山図書館B1F-一般図書 373.1/H 大岡山図書館B1F-文庫・新書 081/Id/511 すずかけ台図書館2F-一般図書 373.1/H</p>	
<p>20年前の「教育改革」は、私たちの教育の土台を作り出している。本書を手にも、学校教育の意義と課題を、確かな眼差しで見つめ直そう。初版は1997年。</p>	
11	<p style="text-align: center;">ジョン・デューイ『学校と社会』（講談社学術文庫、岩波文庫）</p>
<p>大岡山図書館B1F-一般図書 371.253/D（講談社学術文庫） 大岡山図書館B1F-文庫・新書 080/Iz/88（岩波文庫） 大岡山図書館B1F-リベラルアーツ資料 371.253/D（岩波文庫） すずかけ台図書館2F-一般図書 371.253/D（講談社学術文庫） すずかけ台図書館2F-リベラルアーツ資料 371.253/D（岩波文庫）</p>	
<p>教育学の見果てぬ夢。前世紀の幕開けに、アメリカを代表する哲学者は、民主的な社会の建設を、何よりもまず教育に託した。原著の初版は1900年。</p>	

12	ヴィクトール・E・フランク『それでも人生にイエスと言う』 山田邦男・松田美佳訳 (春秋社)
	大岡山図書館B1F-一般図書 146.8/F すずかけ台図書館2F-一般図書 146.8/F
	『夜と霧』の著者として有名なフランクが、ナチスの強制収容所から解放された翌年に行った講演を収めた本であるため、フランクからの語りかけを感じながら読み進められることでしょう。「生きる意味とは?」。この問いをもった人はぜひ読んでみて下さい。これから生きていく中で繰り返し読みたくなる本となるはずです。

13	夏目漱石『三四郎』 (岩波文庫、新潮文庫、角川文庫など)
	大岡山図書館B1F-一般図書 913.6/N (岩波文庫・角川文庫)
	大岡山図書館B1F-一般図書 918/I/13 (日本文学全集)
	大岡山図書館B1F-一般図書 918/N/8 (日本文学全集カラー版)
	大岡山図書館B1F-一般図書 918.6/Si/3 (新潮日本文学)
	大岡山図書館B1F-一般図書 918.68/N/7 (漱石文学作品集)
	大岡山図書館B1F-集密：一般図書 W000520 (日本の文学)
	大岡山図書館B1F-集密：一般図書 W007363 (漱石全集)
すずかけ台図書館2F-一般図書 913.6/N (岩波文庫)	
いまさらと感ずるかも知れないが、未読の人はさっそく、既読の人は再度通読して欲しい。明治時代の学生と今の学生はどこが同じでどこが違うのか。大学で学ぶとはなにかなど、新鮮に感じるのではないだろうか。ところで、三四郎が最初に出会ったとき広田先生はなんで水蜜桃を食べているのだろう？ 私は読み返すたびに不思議になる。馬鹿みたいな味だからってほんとうかな？ それから、三四郎は大学を出たあとでどういう仕事に就くのだろう。	

14	カイザー・ファンク『ヤバい統計学』 矢羽野薫訳 (CCCメディアハウス)
	大岡山図書館B1F-一般図書 417/F すずかけ台図書館2F-一般図書 417/F
	多くの本は「統計学は嘘をつく」と言う。しかし、それでは統計学やデータ分析はどこで使われているのだろうか。この本はそれを教えてくれる。「ヤバい」というタイトルに反して内容は非常に堅実で、統計学をポジティブに評価する一冊である。

15	J・L・ボルヘス『七つの夜』 (岩波文庫)
	大岡山図書館B1F-一般図書 964/B 大岡山図書館B1F-文庫・新書 080/Ie/792 すずかけ台図書館2F-一般図書 964/B
	いつでもくり返し目をみはり耳を澄ますために、私たちは知識を求め、固定しそうな像をゆさぶる。深く広く知ることは精神が身軽になることだと教えてくれる講演集。テーマは夢、詩、仏教など一夜毎に自由に広がる。

16	ダレル・ハフ『統計でウソをつく法——数式を使わない統計学入門』高木秀玄訳 (講談社ブルーバックス)
	大岡山図書館B1F-一般図書 350.1/H 大岡山図書館B1F-一般図書 408/B/120 すずかけ台図書館2F-一般図書 350.1/H すずかけ台図書館2F-一般図書 408/B/120
	欲しい情報は簡単に得られても、その情報を正しく読み解く力がなければ、宝の持ち腐れです。高校数学でもデータ分析を学びますが、単なる計算法を知っていることと、正しくデータを読むこととの違いを考えてみましょう。
17	山岸俊男『心でっかちな日本人——集団主義文化という幻想』(ちくま文庫)
	大岡山図書館B1F-一般図書 361.42/Y すずかけ台図書館2F-一般図書 361.42/Y
	社会心理学者である著者が、自身の専門領域のみならず、経済学、認知科学、文化人類学といった幅広い学問領域の知見も援用しつつ、「日本人は集団主義的である」「いじめがなくなるのは心の問題」といった通説を、実験結果によって次々と覆していく。学問は、世界の見え方を変える力を持っていることを体感してほしい。
18	ハル・グレガーセン『問いこそが答えだ!——正しく問う力が仕事と人生の視界を開く』(光文社)
	大岡山図書館B1F-一般図書 141.5/G
	正しい問いを見つけることの重要性とその方法がわかります。よい問いの作り方、問う能力の磨き方を知りたいとき、問いを変えてよりよい答えを導きたいとき、イノベーティブなアイデアを得たいとき、有用な一冊です。
19	黒田明伸『貨幣システムの世界史』(岩波書店)
	大岡山図書館B1F-一般図書 337.2/Ku
	経済学はおカネの学問だと言われますが、貨幣は経済学にとってまさに鬼門です。ありとあらゆる貨幣論が乱立しています。しかし、貨幣論をやらずして経済学をやったとは言えません。本書は、混沌とした貨幣論の世界に踏み込むための一つの足掛かりになります。

- 20** **伊原 康隆『志学数学 研究の諸段階 発表の工夫』（丸善出版）**
- 大岡山図書館B1F-一般図書 410.7/I
 すすかけ台図書館2F-一般図書 410.7/I
- 高校までは数学と比較的仲良くしてきたし、大学でも数学に興味がある！という皆さんにおすすめです。高等数学に興味をもって、「勉強」から「研究」へシフトしていく際の考え方や心構えの解説は、数学科に進みたい学生は必見ですし、様々な事柄について具体的にしっかり書いてあります。発表の方法などにも言及されていて、とても参考になります。
-
- 21** **ジョージ・ポリア『いかにして問題をとくか』（丸善出版）**
- 大岡山図書館B1F-一般図書 410.7/P
 大岡山図書館B1F-集密：一般図書 W032485
 すすかけ台図書館2F-一般図書 410.7/P
- 数学の問題を解くために、どのように問題を分析すればよいかを、数学者である著者が具体例を交えて書いている本です。1945年に世に出た本ですが、今でも多くの人に読み継がれています。著者は1934年に、G. H. HardyとJ. E. Littlewoodとの共著でInequalitiesという本を執筆しており、確かに膨大な数学的経験があった上での労作だということがわかります。
-
- 22** **ピエール・バイヤール『読んでいない本について堂々と語る方法』大浦康介訳（筑摩書房）**
- 大岡山図書館B1F-一般図書 019/B
- タイトルはふざけているが内容は極めて真っ当。数多ある読書論の中でも出色の出来。「本について語るためにその本を読んでいる必要などない、大事なのは読者共同体がそこに何が書かれているかだ」といった刺激的な主張が次々と繰り出される。本を読むとはどういうことか？何をすれば本を読んだことになるのか？情報爆発の時代にわれわれは書籍とどう付き合っていけばよいのか？こうした問いについて考える上で、本書は多くの示唆を与えてくれる。
-
- 23** **松岡亮二『教育格差』（筑摩書房）**
- 大岡山図書館B1F-一般図書 372.1/M
 すすかけ台図書館2F-一般図書 372.1/M
- 社会関係資本や文化資本の「相続」と「階層」の再生産というテーゼは、古くはフランスの思想家P・ブルデューが定式化した。そのテーゼに則し本書は、大規模縦断データをもとに日本の教育状況を検討し、階層間や地域間での教育格差が存在し、それが世代を超えて引き継がれていることを実証する。都市部出身で比較的裕福かつ文化水準の高い家庭出身者の割合の大きい、東工大生にこそ、本書は読んで欲しい。自己の「意志」や「努力」のほかに、所与に存在する構造的な格差や階層性が個人の人生や選択に大きく影響を与えていることを知ることは、みなさんが自身を相対化し、より良い知性と人間性を獲得する上での一助となるだろう。

●歴史と人物——「人間」って何？

24	石牟礼道子『苦海浄土』(講談社文庫など)
<p>大岡山図書館B1F-一般図書 908/Se/28 (世界文学全集) 大岡山図書館B1F-一般図書 916/I 大岡山図書館B1F-一般図書 916/I (講談社文庫) 大岡山図書館B1F-一般図書 918.68/I/2, 918.68/I/3 (石牟礼道子全集) ずずかけ台図書館2F-一般図書 493.152/I</p>	
<p>文学のあらゆるジャンルを総括してもなお、現代日本屈指の作品である。水俣病に苦しむ人々の姿を描き出したこの作品を、どんなおもいで書き続けたのか、と石牟礼さんに聞いたことがある。詩のつもりで書いたと語ったあと、彼女はこう言った。「闘いのつもり。一人で闘うつもりでした。」人は、独りでも大きな何かを戦い得ることを示した人生の書。</p>	
25	上田紀行『人間らしさ——文明、宗教、科学から考える』(角川新書)
<p>大岡山図書館B1F-一般図書 114/U 大岡山図書館B1F-「東工大先生の本」文庫 114/U ずずかけ台図書館2F-「東工大先生の本」文庫 114/U</p>	
<p>この本は東工大と慶應大学の合同ゼミで2年連続して慶應の女子学生から「東工大生は人間味がない」「こんなに人間に興味がない人たちとは驚いた」と指摘されたというイタい話から始まっている。東工大生は他の人たちからどのように見られがちなのか。ぜひその部分だけでも読んでほしい。しかし、「人間らしさ」とは何だろうか。この本では生殖医学などの先端科学、現代社会のシステム化、そして宗教にも触れながら論じられていくが、それを読みながら私たちは人間なのに「人間らしさ」について真正面から考えてこなかったことに気づかされるだろう。そして最後には皆さんがこれから体験していく東工大の新しいリベラルアーツ教育のねらいと展望にも触れられている。</p>	
26	カズオ・イシグロ『日の名残り』土屋政雄訳(ハヤカワepi文庫)
<p>大岡山図書館B1F-一般図書 933/I (中央公論社) 大岡山図書館B1F-一般図書 933.7/I (ハヤカワepi文庫) ずずかけ台図書館1F-ペリパトス文庫：文庫・新書 933.7/I (ハヤカワepi文庫)</p>	
<p>イシグロは、5歳のときに長崎からイギリスへ移住した日系英国人。2017年、ノーベル文学賞を受賞した。本作は、イギリスの貴族の屋敷に仕えるきまじめな執事を主人公とする物語。いっけん過剰なまでに英国的な小説に思えるものの、イシグロはむしろこうした見方を否定する。現代における作家の越境について、あるいは物語の普遍性について、思いを巡らせてみるのもよいだろう。記憶のなかの日本を描く作品群もおすすめ。</p>	

27	塩野七生『すべての道はローマに通ず——ローマ人の物語X』（新潮文庫）
大岡山図書館B1F-一般図書 232/Si/1, 232/Si/2（新潮文庫） 大岡山図書館B1F-一般図書 232/Si/10（ローマ人の物語） すずかけ台図書館2F-一般図書 232/Si/1, 232/Si/2（新潮文庫） すずかけ台図書館1F-ペリパトス文庫：和書 232/Si/10（ローマ人の物語）	
1992年から2006年までかけて刊行された連作のうちの一冊である。シリーズの他の巻とは異なる構成を採用し、街道、水道、医療、教育といったインフラストラクチャーをとりあげてローマ人というあり方を通観する。文庫版『ローマ人の物語』では<27>と<28>が該当するほか電子書籍としても入手できる。	
28	高橋治『絢爛たる影絵 小津安二郎』（岩波現代文庫）
大岡山図書館B1F-一般図書 778.21/Ta すずかけ台図書館2F-一般図書 778.21/Ta	
小説家として名を成した著者だが、大学卒業後は映画監督を志し、小津安二郎監督の『東京物語』の助監督を務めてもいる。表題作は彼の目から見た小津監督の評伝。併録の「幻のシンガポール」もぜひ読んでほしい。国家の要請と芸術家の良心とのせめぎ合いがリアルに描かれている。	
29	アントニオ・タブッキ『供述によるとペレイラは…』須賀敦子訳（白水Uブックス）
大岡山図書館B1F-一般図書 973/Ta 大岡山図書館B1F-文庫・新書 081/H/134 すずかけ台図書館2F-一般図書 973/Ta	
この作品の舞台はファシスト戦時下のポルトガル。主人公は冴えない新聞記者のペレイラである。供述として綴られる彼の物語では、表現の自由と抑圧的な社会とのはざままで現実から逃避するように日々筆を走らせているこの人物が、若者たちとの出会いによって静かな抵抗に目覚める過程が、ときに幻想的な世界観とともに描かれている。政治的に重い主題を扱いながらも、どこか軽快なタブッキの筆遣いは、エーコやカルヴィーノと並んで、現代イタリア文学の代名詞にふさわしい。タブッキが気に入った人には、アルゼンチンの巨匠のコルタサルやボルヘスもおすすめ。	

30	フランツ・カフカ『変身』高橋義孝訳（新潮文庫）
<p>大岡山図書館B1F-一般図書 908/Ka/20（河出世界文学全集）</p> <p>大岡山図書館B1F-一般図書 908/Sy/12（集英社ギャラリー「世界の文学」）</p> <p>大岡山図書館B1F-一般図書 943/Ka（ドイツの名作）</p> <p>大岡山図書館B1F-一般図書 943.7/Ka（集英社文庫，新潮文庫）</p> <p>大岡山図書館B1F-一般図書 948/Ka/1（カフカ全集）</p> <p>大岡山図書館B1F-一般図書 948/Ka/A3（カフカ全集）</p> <p>大岡山図書館B1F-文庫・新書 080/Kod/Ka（光文社古典新訳文庫）</p> <p>大岡山図書館B1F-文庫・新書 080/Ie/438（岩波文庫）</p> <p>大岡山図書館B1F-文庫・新書 081/H/152（白水Uブックス）</p> <p>大岡山図書館B1F-リベラルアーツ資料 943.7/Ka（新潮文庫）</p> <p>大岡山図書館B1F-集密：一般図書 W004758（現代世界文学全集）</p> <p>大岡山図書館B1F-集密：一般図書 W023112（ドイツの文学）</p> <p>大岡山図書館B1F-集密：一般図書 W026075（世界文学全集）</p> <p>すずかけ台図書館2F-一般図書 908/Ka/20（河出世界文学全集）</p> <p>すずかけ台図書館2F-一般図書 908/Ti/A65（筑摩世界文学大系）</p> <p>すずかけ台図書館1F-ペリパトス文庫：文庫・新書 943.7/Ka（光文社古典新訳文庫）</p> <p>すずかけ台図書館2F-リベラルアーツ資料 943.7/Ka（新潮文庫）</p>	
<p>カフカは日本では名前だけがやたらと有名になってしまったが、じっさいにこの作品を先入観抜きに読めば、不条理だとか、悪夢的だとか、ユダヤ人の悲劇、アウシュビッツを予見したなどという定説がいかにも的外れであるかを知ることになる。「変身」に限らずカフカの作品は、躍動感と生への肯定、笑いに満ち満ちている。</p>	
31	砺波 護『馮道——乱世の宰相』（中公文庫）
<p>大岡山図書館B1F-一般図書 289.2/To ※6月から貸出可能です</p> <p>中国で初めて中央集権体制が確立し、それ以降は諸国家の分裂や王朝の目まぐるしい変遷が絶無となったのは、10世紀は宋(北宋)の成立によるものである。その直前に中国史上で最もマイナーと言われる五代十国時代という変革期があった。その時代に五朝八姓十一君に仕え、文人として剛直、官吏として柔軟という矛盾を貫くことで生き抜いた政治家の評伝である。中国の歴史には西洋の中世に相当するものが存在せず、乱世にあってこそマイナーだが超越的な人間像(曹操、苻堅、そしてこの馮道)を通じ、時折、近代性の幻影が垣間見られる、その深い理由を考えさせる好著である。</p>	
32	原武史『「鉄学」概論——車窓から眺める日本近現代史』（新潮文庫）
<p>大岡山図書館B1F-一般図書 686.21/H ※6月から貸出可能です</p> <p>鉄道を通して、日本社会の構造や日本人の意識を解明していく本。鉄分少なめの諸君は奥深き鉄道の世界の入り口に。鉄分多めの諸君は日本の近代についても語れるデキる大学生になるための指南書として。</p>	

- 33** **藤原辰史『稲の大東亜共栄圏——帝国日本の〈緑の革命〉』(吉川弘文館)**
 大岡山図書館B1F-一般図書 612.2/H
 ずずかけ台図書館2F-一般図書 612.2/H
 近年技術革新が目覚ましい遺伝子組み換え産業。だがそれと並行して種子の市場での多国籍大企業による市場独占も進んでいる。遺伝子組み換えに伴う諸問題は、これまでの品種改良の問題と切り離せないことを著者は説得的に論じている。食物連鎖を支配することは、人を支配することでもある。『ナチス・ドイツの有機農業』の著者が、20世紀初頭の日本の植民地政策と稲の品種改良の歴史との関係に鋭く切り込んだ好著。
- 34** **ヴィクトール・E・フランクル『夜と霧』池田香代子訳(みすず書房)**
 大岡山図書館B1F-一般図書 946/F
 大岡山図書館B1F-リベラルアーツ資料 946/F
 大岡山図書館B1F-一般図書 146.8/F/1(フランクル著作集)
 ずずかけ台図書館1F-ペリパトス文庫:和書 946/F
 ずずかけ台図書館2F-リベラルアーツ資料 946/F
 重いテーマですが、読んだ人は一生忘れないでしょう。強制収容所記というより、「人間」そのものを考えさせる哲学的な書という点で、「教養」の名にふさわしい本だと思います。(わたしたちは、おそらくこれまでのどの時代の人間も知らなかった「人間」を知った。では、この人間とはなにものか。人間とは、なにかをつねに決定する存在だ。人間とは、ガス室を発明した存在だ。しかし同時に、ガス室に入っても毅然として祈りのことばを口にする存在でもあるのだ)
- 35** **ウィリアム・H・マクニール『疫病と世界史』上・下巻、佐々木昭夫訳(中公文庫)**
 大岡山図書館B1F-一般図書 493.8/M/1, 493.8/M/2
 ずずかけ台図書館2F-一般図書 493.8/M/1, 493.8/M/2
 歴史を動かす究極的な力(要因)は何なのか。神の摂理? 超越的な人間の能力? 技術力の発展に伴う経済構造の変化? 単なる偶然と運がすべて? それとも複合的原因による多重的決定? いやいや、それを前にしては免疫を持たぬ人間など全く無力な、未知の(あるいは既に抑止できたと思われていた)感染症・疫病!の力を忘れてはならない。中世の黒死病(ペスト)がなかったら、我々は現在、我々の知る世界とは全く違った世界を眼にしていたであろう。ホーキングが敢えて「絶対に人類は未知との遭遇をしてはならない」という理由もそこにある。我々の運命は、愚か者の手中などではなく、知られざるウィルスに握られているのかもしれない。同時に「同じ意味で」ジョン・W・キャンベルの『影が行く』も必読書である。

36	ジョン・スチュアート・ミル『自由論』 齊藤悦則訳（光文社古典新訳文庫）
	<p>大岡山図書館B1F-一般図書 080/Se/I38（世界の名著） 大岡山図書館B1F-一般図書 133.4/M（光文社古典新訳文庫） 大岡山図書館B1F-文庫・新書 080/Koc/M（光文社古典新訳文庫） 大岡山図書館B1F-文庫・新書 080/Id/116（岩波文庫） 大岡山図書館B1F-リベラルアーツ資料 133.4/M （Nikkei BP classics・光文社古典新訳文庫・岩波文庫） すずかけ台図書館2F-一般図書 133.4/M（Nikkei BP classics） すずかけ台図書館2F-リベラルアーツ資料 133.4/M （Nikkei BP classics・光文社古典新訳文庫・岩波文庫）</p>
	<p>学生の時、中央公論社の「世界の名著」シリーズで読んだのですが、こちらは少し入手しにくいようです。岩波文庫からも出ていますが、読みやすさの観点から、光文社古典新訳文庫版を推薦します。</p>
37	スタンレー・ミルグラム『服従の心理』(Obedience to Authority: An Experimental View)
	山形浩生訳（河出文庫）
	<p>大岡山図書館B1F-一般図書 361.43/M すずかけ台図書館2F-一般図書 361.43/M</p>
	<p>「服従の本質というのは、人が自分を別の人間の願望実行の道具として考えるようになり、従って自分の行動に責任をとらなくていいと考えるようになる点である」(序文より)。本書は、1960年からスタンレー・ミルグラム博士によって3年間に渡って実施された、服従に関する心理実験、通称「アイヒマン実験」の報告書である。人は誰であっても、特定の役割を与えられ、観察者による指示を受け、その行為に理由付けがなされた場合、際限なく残酷に他者を処罰するようになってしまっているのではないかと。記憶テストで単純なミスをした者に電撃を加えるようにと言われた被験者は、いとも簡単に指示に従ってしまう。この本と同時に、ミルグラム博士の半生を描いた『アイヒマンの後継者 ミルグラム博士の恐るべき告発』(The Experimenter, 2015)も薦めたい。博士の服従実験の様子と彼の考察が、豊かな映画的表現とともに生き生きと活写されている。</p>
38	ダニエル・カーネマン『ファスト&スロー あなたの意思はどのように決まるか?』村井章子訳
	(早川書房)
	<p>大岡山図書館B1F-一般図書 141.5/Ka/1, 141.5/Ka/2 すずかけ台図書館1F-ペリパトス文庫：文庫・新書 141.5/Ka/1, 141.5/Ka/2</p>
	<p>2002年にノーベル経済学賞を受賞した心理学者カーネマンの著書である。本書では、私たちの意思決定過程に係わる様々な心理的要因が取り上げられており、いかに私たちが無意識的な心理プロセスに気づいていないかを気づかせてくれる。多くの実験内容が具体的に例示されているので、体験を通じて、「人間」について新たな視点をもつ機会を提供してくれる。</p>

- 39 **リチャード・P・ファインマン『ご冗談でしょう、ファインマンさん（上）』（岩波書店）**
Richard Phillips Feynman. Surely You're Joking, Mr. Feynman: Adventures of a Curious Character. W. W. Norton & Company.
- 大岡山図書館B1F-一般図書 420.28/F/1
 大岡山図書館B1F-一般図書 420.28/F/1（岩波現代文庫）
 すずかけ台図書館1F-ペリパトス文庫：文庫・新書 289.3/F/1（岩波現代文庫）
- ノーベル賞受賞物理学者の自伝。読みやすく笑える。ラジオの組み立て、いんげん豆の切り方、ダンス、眠りと夢、化学マジック、虫、読唇術など何にでも興味を持ち、いたずら好きのファインマン。上巻は彼の子ども時代、大学生・大学院生時代、若手研究者時代。ロスアラモスで原子爆弾の開発に関わったことについても。人の好奇心はどのように働くのかが生き生きと描かれる。もし興味を惹かれたらぜひ下巻も読んでみてほしい。下巻ではブラジルでの在外研究中にサンバに興味を持ち、バンドのメンバーになってしまう。
- 40 **三好信浩『手島精一 渋沢栄一が敬愛した日本の名校長』（青簡舎）**
- 大岡山図書館B1F-一般図書 507.7/M
 すずかけ台図書館2F-一般図書 507.7/M
- 東京工業大学において唯一（それも100年前から）銅像が飾られている人物、手島精一とは何者だろうか。手島の人生は困難の連続だった。下級士族出身で明治維新を経験し、アメリカ留学を困窮により中断して「空しく志を擁いて帰朝」し、実業教育のために作った製作学教場は廃止された。それでも、頭と手が融合したよき技術者を育てるという彼の夢は、東京職工学校（現・東京工業大学）という形で実を結んだ。自分の志について考える際に、先人の志を読んでみてはどうだろうか。

●世界を知る、社会を変える——「現代」って何？

41	池上彰、上田紀行、中島岳志、弓山達也『平成論「生きづらさ」の30年を考える』 (NHK出版新書)
	大岡山図書館B1F-「東工大先生の本」文庫 210.77/H すずかけ台図書館2F-「東工大先生の本」文庫 210.77/H
<p>皆さんは自分が生まれ、育ってきた「平成」という時代がどんな時代か知っていますか？人間は社会によって作られるとすれば、自分がどこまで時代の影響を受けているのかを知ることは必須でしょう。この本では「生きづらさ」をキーワードに平成という時代を読み解いています。「昭和」の影響下で育った皆さんのご両親や先生達との違いを知るヒントにもなることでしょうか。東工大リベラルアーツ研究教育院の4人の教員の共著ということで、1冊で4人の視点を知ることができるお得な本でもあります。</p>	
42	宇沢弘文『自動車の社会的費用』(岩波新書)
	大岡山図書館B1F-一般図書 685.1/U 大岡山図書館B1F-文庫・新書 081/Ib/890 すずかけ台図書館2F-一般図書 685.1/U
<p>現代社会に不可欠な自動車の普及がもたらす問題について経済学的、法政策的な議論を知ることができる。</p>	
43	北村英哉、唐沢譲 編『偏見や差別はなぜ起こる？』(ちとせプレス)
	大岡山図書館B1F-一般図書 361.4/Ki すずかけ台図書館2F-一般図書 361.4/Ki
<p>社会心理学の知見から偏見や差別が生じるメカニズムについて解説しています。また、それが人種、民族、障害、ジェンダーなどの集団・社会カテゴリーのなかでどのような問題になっているのか、例題をもって示しています。</p>	
44	後藤健二『ダイヤモンドより平和がほしい——子ども兵士ムリアの告白』(汐文社)
	大岡山図書館B1F-一般図書 319.8/G すずかけ台図書館2F-一般図書 319.8/G
<p>小中学生でも読めるような平易な文章、大きな文字で書かれていて、だれにでも分かるように丁寧に書く・伝えるということの大切さに気づかされます。意に反して子ども兵にされた少年との対話を通して、そして子ども兵の被害に遭った人々の記憶を通して、忘れることができない記憶に向き合う姿が胸に迫ります。世界の現状について考えるきっかけに。</p>	

45	<p align="center">田尻宗昭記念基金『なにやっぺんだ行動しよう』(アットワークス)</p>
	<p>大岡山図書館B1F-一般図書 519/Ta すずかけ台図書館2F-一般図書 519/Ta</p>
	<p>法制度の枠組みを最大限活用して四日市公害の摘発に尽力した田尻宗昭氏。その記念基金を受賞した様々な市民活動が有名な公共訴訟の基にあることを知ることができる。</p>
46	<p align="center">チヨ・ナムジュ『82年生まれ、キム・ジヨン』斎藤真理子訳(筑摩書房)</p>
	<p>大岡山図書館B1F-一般図書 929.1/C すずかけ台図書館1F-ペリパトス文庫：和書 929.1/C</p>
	<p>ベストセラーになった韓国のフェミニズム小説で、日本にも通じるジェンダー課題を面白いストーリーで読ませる内容です。</p>
47	<p align="center">ノーム・チョムスキー『メディア・コントロール—正義なき民主主義と国際社会』鈴木主税訳(集英社新書)</p>
	<p>大岡山図書館B1F-一般図書 361.4/C すずかけ台図書館2F-一般図書 361.4/C</p>
	<p>2003年に出版された本ですが、その主張は今でも古びていません。著者は、生成文法理論を提唱する言語学者。本書を読んで、与えられた情報を鵜呑みにせず、自分の頭で考えることの大切さについて考えてみてください。</p>
48	<p align="center">長谷部恭男『Interactive憲法 続』(有斐閣)</p>
	<p>大岡山図書館B1F-一般図書 323.14/H/2 すずかけ台図書館2F-一般図書 323.14/H/2</p>
	<p>高名な憲法学者による憲法の理念のエッセンスを多角的に取り上げ、人権の保障、法の支配の重要性を知ることができる。</p>
49	<p align="center">原田正純『水俣病』(岩波新書)</p>
	<p>大岡山図書館B1F-一般図書 493.152/H 大岡山図書館B1F-文庫・新書 081/Ib/841 すずかけ台図書館2F-一般図書 493.152/H</p>
	<p>社会に大きな影響を与えた公害病である水俣病についてその原因追究の過程、企業の利潤追求や行政の姿勢、患者のおかれた立場などについて患者の側にたって水俣病を告発していた医師が記したもの</p>

50	<p style="text-align: center;">牧野淳一郎『原発事故と科学的方法』（岩波書店）</p>
	<p>大岡山図書館B1F-一般図書 408/I/216 大岡山図書館B1F-一般図書 543.5/M すずかけ台図書館2F-一般図書 543.5/M</p>
	<p>福島第一原子力発電所の事故直後から公式情報にも混乱がある中、事故の規模や放射性物質の状況を高い精度で見通し、情報発信を行う科学者が東工大にいた。原発や放射性物質の専門家ではない彼が高校生にも理解可能な科学知識を用いて、どのようにそれを成し遂げたかの記録であり、改めて原発の問題を振り返るきっかけとなる。</p>
51	<p style="text-align: center;">山浦善樹『お気の毒な弁護士』（弘文堂）</p>
	<p>大岡山図書館B1F-一般図書 327.14/Y すずかけ台図書館2F-一般図書 327.14/Y</p>
	<p>元最高裁判事の半生を法学者がインタビューして書籍にまとめたものです。マチ弁（街の弁護士）と呼ばれる、民事事件を扱い、庶民の悩みに対応する職務に従事する方の視点。</p>
52	<p style="text-align: center;">ムハマド・ユヌス『貧困のない世界を創る——ソーシャル・ビジネスと新しい資本主義』 猪熊弘子訳（早川書房）</p>
	<p>大岡山図書館B1F-一般図書 335.8/Y すずかけ台図書館2F-一般図書 335.8/Y</p>
	<p>Muhammad Yunus with Karl Weber, <i>Creating a World without Poverty: Social Business and the Future of Capitalism</i>, New York, Public Affairs, 2007.</p>
53	<p style="text-align: center;">Yousafzai, Malala, <i>I Am Malala: The Girl Who Stood Up for Education and Was Shot by the Taliban</i>. Co-written by Christina Lamb. New York: Little, Brown, 2013</p>
	<p>大岡山図書館B1F-一般図書 289.2/Y すずかけ台図書館1F-ペリパトス文庫：洋書 289.2/Y</p>
	<p>An inspirational autobiography by a brave young girl from the Swat Valley of Pakistan, raised by a loving mother and a father who instilled in her a love for learning, with a clear message: Give girls an education. Malala's outspokenness and her BBC blog nearly cost her life—shot in the head by a Taliban on her way home from school. Yet, her survival gives us hope as we see nations unite, providing her with medical treatment and a more prominent and audible platform at The United Nations for her activities. Malala, the youngest Nobel Peace Prize winner, shows us how one individual can change the world by becoming a voice for those who cannot speak.</p>

- 54** **スティーブン・レビット、ステファン・ダブナー『ヤバい経済学』望月衛訳（東洋経済新報社）**
 大岡山図書館B1F-一般図書 331.04/L
 ずずかけ台図書館2F-一般図書 331.04/L
- 計量経済学者スティーブン・レビットが解き明かす社会の裏側は、とても刺激的だ。アメリカの犯罪を減らしたのは、警察の戦略ではなく意外な政策だった。学校の先生はズルをする、日本の力士と同じように。データが明らかにするのは反直感的な事実だ。
- 55** **キャロライン・クリアド・ペレス『存在しない女たち—男性優位の世界にひそむ見せかけのファクトを暴く』神崎朗子訳（河出書房新社）**
 大岡山図書館B1F-一般図書 367/C
 ずずかけ台図書館2F-一般図書 367/C
- 多様性、ジェンダーバランスという言葉は聞き飽きた、自分はマイノリティーを尊重する精神を十分にもっていると感じる人もいるかもしれない。しかし、日常生活や職場、都市計画、医療、社会政策において、男性を基準として物事が構築され、社会が動いていることを、本書は数多くのデータを基に明らかにしている。多くの差別は悪意によるものではなく、認識の欠如によって生じている。私たち一人ひとりが世界の状況に目を向け、具体的な変化を起こしていく必要があることに気づかせてくれる書籍である。
- 56** **宇野弘蔵『経済原論』（岩波書店）**
 大岡山図書館B1F-文庫・新書 080/Id/151（岩波文庫）
 大岡山図書館B1F-一般図書 331/U（岩波全書）
 ずずかけ台図書館2F-リベラルアーツ資料 331/U（岩波全書）
- 大学生のうちに『資本論』くらい読んでおきたいけれど、長すぎてしんどい……という人へ。『資本論』の解説書はたくさんありますが、そうやって大雑把に内容を把握して「読んだ」というアリバイを作るだけで、本当にいいですか？ 自分の頭で理解し、真の意味で「読んだ」と言えるためには、どういいう「読み」が必要なのか、本書を読んで考えてみてください。

大岡山図書館B1F-一般図書 913.6/Ko（岩波文庫）
 大岡山図書館B1F-一般図書 918/N/s1（日本文学全集カラー版）
 大岡山図書館B1F-一般図書 918.6/N/I17（日本文学全集）
 大岡山図書館B1F-一般図書 918.6/G/C55（現代日本文学大系）
 大岡山図書館B1F-一般図書 918.6/N/26（日本プロレタリア文学集）
 大岡山図書館B1F-一般図書 918.6/Sy/32（昭和文学全集）
 大岡山図書館B1F-文庫・新書 080/Ic/88（岩波文庫）
 大岡山図書館B1F-リベラルアーツ資料 913.6/Ko（新潮文庫）
 すずかけ台図書館2F-一般図書 918.6/Ti/A38（筑摩現代文学大系）
 すずかけ台図書館1F-ペリパトス文庫：文庫・新書 913.6/Ko（新潮文庫）
 すずかけ台図書館2F-リベラルアーツ資料 913.6/Ko（新潮文庫）

「現代版『蟹工船』」という言い回しは、人口に膾炙（かいしゃ）している。本書で描かれる「蟹工船」の状況は悲惨かつ壮絶である。不衛生な環境下、虫けら同様の扱いを受ける漁夫や雑夫は、ただ内地の資本家のために働く。過重労働と栄養不足で身体を壊し、起こるべくして起こる事故と「しごき」に命を奪われながら。

階級の問題と、帝国主義・国内植民地の問題を鋭く描き出す本書は、翻って、安直かつ一面的な過去の礼賛にストップをかけてくれる。同時に、今なお存在する格差と搾取の構造に目を向けさせてくれる点に、本書の魅力があり参照される理由がある。最後に描かれる弱者たちの連帯に対して、あなたはどのような立場をとるか。

●自然と技術 ――「科学」って何？

- | | |
|-----------|---|
| 58 | 稲垣栄洋『はずれ者が進化をつくる――生き物をめぐる個性の秘密』（ちくまプリマー新書） |
| | 大岡山図書館B1F-一般図書 467.5/I
すずかけ台図書館2F-一般図書 467.5/I
すずかけ台図書館1F-ペリパトス文庫：文庫・新書 467.5/I |
| | 本書では、個性や多様性について生物学の見地から分かりやすく説明しています。「弱い」ことは成功の条件であるかのようだと言者は述べます。もし、あなたが「弱さ」に関心があれば、本が好きな人もそうでない人も最後まで本書を楽しく読めるはずです。 |
| 59 | 宇沢弘文『自動車の社会的費用』（岩波新書） |
| | 大岡山図書館B1F-一般図書 685.1/U
大岡山図書館B1F-文庫・新書 081/Ib/890
すずかけ台図書館2F-一般図書 685.1/U |
| | 自動車を使用することは、たんに「私的な資源の利用」（自動車購入費、ガソリン代）ではなく、必ず道路という社会的資源の使用にもかかわることだ。それはより広くは都市環境の問題にも直結する。自動車が歩行者の権利を侵害しているという視点から、自動車運転を取り囲む経済構造とその諸問題を捉えた、日本を代表する数理経済学者による刺激的な論考。これとは別に、「自動車に乗る」経験が人間と風景との接し方を変えるという論点に興味がある方は、M. フェザーストン/N. スリフト /J. アーリー編著『自動車と移動の社会学』（近森高明訳、法政大学出版局）を参照のこと。 |
| 60 | 斎藤憲『アルキメデス『方法』の謎を解く』（岩波科学ライブラリー） |
| | 大岡山図書館B1F-一般図書 408/I/232
すずかけ台図書館2F-一般図書 408/I/232 |
| | アルキメデスは数学者か技術者か。謎に包まれた『方法』という著作を紐解くことで、純粋に数学的な問題に機械学的な概念を持ち込んだアルキメデスの創意が明らかになる。ちなみに、『リーダーの教養書』等のブックガイドでは、同シリーズの『ユークリッド『原論』とは何か』が推薦されている。しかし、著者の斎藤憲氏曰く「東工大生に読んで欲しい最初の一冊は、技術についても学べるアルキメデスのほう！」とのこと。 |
| 61 | トーマス・クーン『科学革命の構造』中山茂訳（みすず書房） |
| | 大岡山図書館B1F-一般図書 402/Ku
大岡山図書館B1F-リベラルアーツ資料 402/Ku
すずかけ台図書館2F-一般図書 402/Ku
すずかけ台図書館2F-リベラルアーツ資料 402/Ku |
| | パラダイムという概念を最初に提唱された本です。今までの科学における発明がどのようにパラダイムシフトしてきたかを理論的に説明している本です。 |

62	柴田鉄治『科学事件』（岩波新書）
大岡山図書館B1F-文庫・新書 081/Id/663 ※6月から貸出可能です すすかけ台図書館2F-一般図書 404/Si	
臓器移植、薬害エイズ、クローン羊などの科学事件について、学会、行政、報道がどのように対応したかについて元新聞記者の立場から語られている。	
63	ルース・シュウォーツ・コーワン『お母さんは忙しくなるばかり』高橋雄造訳（法政大学出版局）
大岡山図書館B1F-一般図書 590.2/C すすかけ台図書館2F-一般図書 590.2/C	
科学技術は人々の生活をよくするためにある。技術者なら、誰でもそう考えているはずだ。だが、家事を軽減するはずの家電が、20世紀、実は家事労働を増やしてしまった。もう主婦の時代ではないかも知れないけれど、技術と人間の関係を考えるのに本書は示唆に富んでいる。	
64	竹村公太郎『日本史の謎は「地形」で解ける』（PHP文庫）
大岡山図書館B1F-一般図書 210/Ta/1 すすかけ台図書館2F-一般図書 210/Ta/1 すすかけ台図書館1F-ペリパトス文庫：文庫・新書 210/Ta	
ブラタモリで「地形」がブームとなっている今、この本を読まずにブラタモリは語れない。この本を読むと「地形」がどのように日本の歴史に影響を与えてきたのか、また本当に「公共工事は悪」なのかを考えさせられる。「まだ訪れたことのない街に行くときにグーグルマップよりも地形図を開きたくなる！」そんな一冊。同シリーズの【文明・文化篇】および【環境・民族篇】もお薦め。	
65	武谷三男『安全性の考え方』（岩波新書）
大岡山図書館B1F-一般図書 519/Ta	
健康に関連するいくつかの事例の顛末等が記載され安全について考える材料になると思う。事例については新しいものではないが、現在の社会においても形を変えて起こりうる問題である。	
66	中村桂子『科学者が人間であること』（岩波新書）
大岡山図書館B1F-一般図書 404/N 大岡山図書館B1F-文庫・新書 081/Id/1440 すすかけ台図書館2F-一般図書 081/Id/1440	
生命科学・生命誌を専門とする著者が、東日本大震災以降、改めて問い直したこれからの科学と科学者としてのありよう。「人間は生きものであり、自然の中にある」という考えの基盤が、繰り返し語られる。	

67	<p style="text-align: center;">藤森照信『フジモリ式建築入門』（ちくまプリマー新書）</p>
	<p>大岡山図書館B1F-一般図書 520/H すずかけ台図書館2F-一般図書 520/H</p>
	<p>著者は、その土地の自然に溶け込みながらもどこかユーモアを感じさせる建物で知られる建築家。本書は、実用的な「人の住まい」と、美や壮麗さを表現するための「神の住まい」の二つに建築を分け、竪穴式住居から現代のLDK住宅まで、人類の建物をめぐる営みを考察する。</p>
68	<p style="text-align: center;">小島信夫『アメリカン・スクール』（新潮文庫）</p>
	<p>大岡山図書館B1F-一般図書 913.6/Ko（新潮文庫） 大岡山図書館B1F-一般図書 918/N/52（日本文学全集カラー版） 大岡山図書館B1F-一般図書 918.6/G/C90（現代日本文学大系） 大岡山図書館B1F-一般図書 918.6/H/25（ふるさと文学館） 大岡山図書館B1F-一般図書 918.6/N/I38（日本文学全集） 大岡山図書館B1F-一般図書 918.6/Si/54（新潮日本文学） 大岡山図書館B1F-一般図書 918.6/Sy/21（昭和文学全集） 大岡山図書館B1F-一般図書 913.68/A/5（芥川賞全集） すずかけ台図書館2F-一般図書 913.6/Ko（新潮文庫） すずかけ台図書館2F-一般図書 913.68/A/5（芥川賞全集）</p>
	<p>小説とは、作者の意図やメッセージを投影する媒体ではなく、それが書かれることによって、結果的に作者の意図などを遥かに超えた「得体の知れなさ」として表出される芸術である、ということはこの作品集は示している。江藤淳と保坂和志の解説の対比も読む価値あり。</p>
69	<p style="text-align: center;">宮沢賢治『銀河鉄道の夜』（岩波文庫、ちくま文庫、新潮文庫など）</p>
	<p>大岡山図書館B1F-一般図書 908.3/Se/B34（世界SF全集） 大岡山図書館B1F-一般図書 913.6/M（ちくま文庫：宮沢賢治全集） 大岡山図書館B1F-一般図書 913.8/M（岩波文庫） 大岡山図書館B1F-一般図書 918.6/G/C27（現代日本文学大系） 大岡山図書館B1F-一般図書 918.68/M/D9, 918.68/M/D10（校本宮澤賢治全集） 大岡山図書館B1F-一般図書 918.68/M/12（新修宮沢賢治全集） 大岡山図書館B1F-文庫・新書 080/Ic/76（岩波文庫） すずかけ台図書館2F-一般図書 913.6/M（ちくま文庫：宮沢賢治全集） すずかけ台図書館2F-一般図書 913.8/M（岩波文庫） すずかけ台図書館1F-ペリパトス文庫：文庫・新書 913.6/M（新潮文庫・岩波少年文庫） すずかけ台図書館2F-リベラルアーツ資料 913.6/M（新潮文庫）</p>
	<p>新潮版では削られているが、この鉄道の旅全体を実験とよぶ博士が登場する場面もおもしろい。各時代が真実とみなす宇宙像の違い、その変遷の歴史をたどりながら、では自分はどんな像を描き生きるのか。</p>

70	<p style="text-align: center;">吉田洋一『零の発見』（岩波新書）</p>
	<p>大岡山図書館B1F-一般図書 410.2/Y すずかけ台図書館2F-一般図書 410.2/Y</p>
	<p>数学の生い立ちを分かりやすく説明している古典的名著。前半はアラビア数字のインドから欧州への伝搬を、後半はギリシャの数学を中心テーマとしている。無限、対数、連続、デデキントの切断から算盤など、話題も豊富。著者の吉田先生は、いまもときどき学内でお見かけする吉田夏彦・東工大名誉教授（科学哲学、論理学）のお父上で、本学とも縁が深い。</p>
71	<p style="text-align: center;">ジェームス・D・ワトソン『二重らせん』江上不二夫、中村桂子訳（講談社ブルーバックス）</p>
	<p>大岡山図書館B1F-一般図書 464.27/W（講談社文庫） 大岡山図書館B1F-リベラルアーツ資料 464.27/W（ブルーバックス） すずかけ台図書館2F-リベラルアーツ資料 464.27/W（ブルーバックス）</p>
	<p>DNAの二重らせん構造を解明するまでの道のりを、当事者のワトソンが書いたもの。科学者が日々どのように考え感じて研究しているか、研究競争とはどんなものかよくわかる。描写の面白さから専門用語は気にならない。</p>
72	<p style="text-align: center;">エイドリアン・オーウェン『生存する意識—植物状態の患者と対話する』柴田裕之訳（みすず書房）</p>
	<p>大岡山図書館B1F-一般図書 493.73/O すずかけ台図書館2F-一般図書 493.73/O</p>
	<p>植物状態と診断され、意識がないはずの患者の中に、十分な知覚や認識能力がある人々がいる—fMRIを用いたマインド・リーディングの手法で、意識があるかないかの二分法では捉えきれない「グレイゾーン」があることを、本書の著者で神経科学者のオーウェンは明らかにした。脳と意識の奥深さに圧倒され、人間とは何だろうか、どう生きるべきかと考えさせられる。さらに、一人の研究者が家族や恋人とともに生き、目の前の患者やテクノロジーと格闘し、研究の使命に向かって走り続ける様子に勇気づけられる。</p>
73	<p style="text-align: center;">坂本 幸雄『不本意な敗戦 エルピーダの戦い』（日本経済新聞出版社）</p>
	<p>大岡山図書館B1F-一般図書548.232/Sa ※4月中に配架予定です</p>
	<p>日立製作所、NEC、三菱電機のDRAM（メモリ）部門を統合したエルピーダが、どのように破綻への道を歩んだのか？ 最終的に会社更生法を適用しながらも、社員をひとりも切らずに再生することができたのはなぜなのか？ 東工大生には、東芝メモリーの消滅や東芝本体の迷走が示すように、テクノロジーがいかにダイナミックでかつ壊れやすいものなのか、そして技術がいかに社会的な要因の影響を受けやすいものなのかを理解し、サバイバルのための「リベラルアーツカ」の必要性を感じて欲しい。</p>

●聞いて、話して、物語る ――「言葉」って何？

- | | |
|--|---|
| 74 | 赤瀬川原平『新解さんの謎』(文春文庫) |
| | 大岡山図書館B1F-一般図書 914.6/A
すずかけ台図書館2F-一般図書 914.6/A |
| 日本語の字引は世界の言語の中でもかなり異色だが、中でも『新明解国語辞典』はぶっ飛びの例文がざくざく出てくる。たとえば「恋愛」の項で、「一組の男女が相互にひかれ、ほかの異性をさしおいて最高の存在としてとらえ、毎日会わないではいられなくなる」とある。これに限らず、そこまで書かなくてもと思う語釈が多い。読んでいて実に楽しい辞典が『新明解』である。その『新明解』のおもしろさを物語に仕立てあげたのが、この本なのだ。 | |
| 75 | ガブリエル・ガルシア=マルケス『百年の孤独』鼓直訳(新潮社) |
| | 大岡山図書館B1F-一般図書 963/G
大岡山図書館B1F-リベラルアーツ資料 963/G
すずかけ台図書館2F-リベラルアーツ資料 963/G |
| コロンビアのノーベル賞受賞作家による、マジックリアリズムの代表作。ガルシア=マルケスの大きな魅力のひとつは、その迫力にみちた見事な語り口にある。うねるような語りの流れに身を任せ、現実と幻想が渾然一体となった豊潤な世界を堪能してほしい。 | |
| 76 | 木下是雄『理科系の作文技術』(中公新書) |
| | 大岡山図書館B1F-一般図書 407/Ki
大岡山図書館B1F-文庫・新書 081/Ty/624
すずかけ台図書館2F-一般図書 407/Ki |
| とにかく早く読んでほしい一冊です。「目標規定文」、「重点先行主義」、「逆茂木型の文章を避ける」、「はっきり言い切る」、「事実と意見」、「まぎれのない文」、などなど。どれも重要です。11章の「スライド」の説明には時代を感じます。 | |
| 77 | 窪菌晴夫『新語はこうして作られる』(岩波書店) |
| | 大岡山図書館B1F-一般図書 814/Ku ※6月から貸出可能です |
| カレーコロッケとコロッケカレー、さてカレーライスの上にコロッケが乗せられて出されるものは、どちら？ またそれはなぜ？ 単語と単語の合成語を複合語と呼ぶが、なんでもかんでも自由なルールで複合語は作られるわけではない。そこにはとても緻密なルールがあるのだ。 | |

78	黒田龍之助『外国語をはじめる前に』（ちくまプリマー新書）
大岡山図書館B1F-一般図書 801/Ku すすかけ台図書館2F-一般図書 801/Ku	
本書は、外国語を習得する楽しみや辛さを、言語学の知識を交えながらわかりやすく解説する。「『カッコイイ』ことは、外国語を学ぶ一番のモチベーション」、「辞書は服と同じで、成長に合わせて買い換える」など、眼から鱗の意見が次々と展開される。著者の主張には、語学が嫌いな人も好きな人も共感できるはず。	
79	小林隆、澤村美幸『ものの言いかた西東』（岩波新書）
大岡山図書館B1F-一般図書 818/Ko 大岡山図書館B1F-文庫・新書 081/Id/1496 すすかけ台図書館2F-一般図書 818/Ko	
方言というと、何を思い浮かべるでしょうか。言葉の違い？ 音の高低？ 本書は「決まった言い方をするかしないか」「間接的に言うか直接的に言うか」といった言いかたの地域差に着目し、調査をまとめたものです。コミュニケーションが苦手だと感じている方にお勧めしたい一冊です。	
80	五味康祐『柳生武芸帳』上・下巻（文春文庫）
大岡山図書館B1F-一般図書 913.6/G/1, 913.6/G/2 すすかけ台図書館2F-一般図書 913.6/G/1, 913.6/G/2	
昭和30年代、週刊誌に連載された時代活劇小説。最初は人物相関図を描きながら多彩な人物像とストーリー展開を楽しんでほしい。その上で、静と動、明暗と色彩、遠と近とを取り入れた視覚的な描写法、あるいは物語中の事物や制度についてのうんちく話の導入といった語り口にも気を向けていきたい。ただし、ところどころに濃い情景が現れる。その方面の描写が苦手ならばこの作品は避けたほうがよい。	
81	オリヴァー・サックス『タングステンおじさん——化学と過ごした私の少年時代』 斉藤隆央訳 （早川書房）
大岡山図書館B1F-一般図書 289.3/Sa 大岡山図書館B1F-文庫・新書 080/NF/472（ハヤカワ文庫）	
映画「レナードの朝」の原作者として知られる脳神経科医の少年時代の回想録。タングステン電球の製造工場を営んでいた叔父たち（タングステンおじさん）に助けられて過ごした化学実験三昧の少年時代について。記述だけでも化学の面白さにわくわくする。	

82	施 光恒『英語化は愚民化 日本の国力が地に落ちる』(集英社新書)
大岡山図書館B1F-一般図書 830.4/Se ずずかけ台図書館2F-一般図書 830.4/Se	
<p>英語化するというのは日本にどのような変化をもたらすのか、専門分野を日本語で勉強できることがどれほど幸せなことなのか、日本語文化の意義を改めて問い直す「英語が苦手な東工大生」が理論武装するための必読の書。</p>	
83	チャールズ・R・ダーウィン『新訳 ビーグル号航海記』上・下巻 荒俣宏訳(平凡社)
大岡山図書館B1F-一般図書 402.9/D/1, 402.9/D/2 ずずかけ台図書館2F-一般図書 402.9/D/1, 402.9/D/2	
<p>20代のダーウィンを世界的な科学者にした5年間にわたる世界一周航海の記録。帰国して8か月で書かれた初版には進化論的な内容はないが、8年後に書かれた第2版(翻訳もこちらの版から)にはすでに進化論的な記述がある。</p>	
84	広瀬友紀『ちいさい言語学者の冒険——子どもに学ぶことばの秘密』(岩波科学ライブラリー)
大岡山図書館B1F-一般図書 408/I/259 大岡山図書館B1F-一般図書 801.04/H ずずかけ台図書館2F-一般図書 408/I/259	
<p>著者は、子どもたちの言い間違いや疑問から、私たちが当たり前だと思って特に考えもしないような言語の性質を考察します。軽妙な語り口の本ですが、子どもたちの創造力と分析力に目をひられる一冊です。「は」のてんてんを、子供はどう発音するでしょう。</p>	
85	レイ・ブラッドベリ『華氏451度』伊藤典夫訳(ハヤカワ文庫SF)
大岡山図書館B1F-一般図書 908.3/Se/B13(世界SF全集) 大岡山図書館B1F-一般図書 933.7/B(ハヤカワ文庫) ずずかけ台図書館2F-一般図書 933.7/B(ハヤカワ文庫) ずずかけ台図書館1F-ペリパトス文庫:文庫・新書 933.7/B(ハヤカワ文庫)	
<p>舞台は近未来、その社会では法律により読書が禁じられている。この社会では消防士(fireman)の仕事は火を消すことではなく、本を所持している者の住居を急襲し火炎放射器で本を燃やし尽くすことなのだ。主人公である消防士モンターグは毎日熱心に本を燃やす仕事に従事しながら、ある日たまたま一冊の本を手にしてしまう。だめだと思いつつ本を開いてみると…。なぜこの未来社会では本は燃やされなければならないのか、人は本を読むことでどのようにその精神を変容させていくのだろうか。読書が禁じられた未来社会についてのこのSF小説を読むことで、僕たちは、ひとまずは自由に読書ができる自分たちの社会を新鮮な観点から眺め直すことができるだろう。フランソワ・トリュフォー監督による同名映画も必見に値する。</p>	

86	マーク・ピーターセン『日本人の英語』（岩波新書）
<p>大岡山図書館B1F-一般図書 835/P 大岡山図書館B1F-文庫・新書 081/Id/18 すずかけ台図書館2F-一般図書 835/P</p>	
<p>この本の著者は東工大での研究歴があります。書くための英語の本で、読みやすく、関係代名詞の使い方、冠詞の使い方などがとても役に立ちます。同じシリーズの『続 日本人の英語』（1990年）と『実践 日本人の英語』（2013年）もお薦めです。</p>	
87	イアン・マキューアン『贖罪』小山太一訳（新潮文庫）
<p>大岡山図書館B1F-一般図書 933.7/M/1, 933.7/M/2 ※6月から貸出可能です</p>	
<p>英国の現代作家マキューアンの傑作。悲恋の物語、戦争の物語としても十分おもしろく読めるのだが、なにより〈物語〉について、〈書く〉という行為について、深く考えさせる作品である。結末のどんでん返しにいたって、読者はまったく異なる視点から物語をふたたび辿りなおすことになるだろう。</p>	
88	マーク・C・ベイカー『言語のレシピ——多様性にひそむ普遍性をもとめて』郡司隆男訳（岩波現代文庫）
<p>大岡山図書館B1F-一般図書 801/B すずかけ台図書館2F-一般図書 801/B</p>	
<p>著者はモホーク語などを研究する言語学者。本書は、生成文法において言語の多様性がどのようにとらえられるのかを紹介しています。限られた数のパラメータでさまざまな言語の違いが説明できることにワクワクしてください。</p>	
89	松本修『全国アホ・バカ分布考——はるかなる言葉の旅路』（新潮文庫）
<p>大岡山図書館B1F-一般図書 810.2/M（新潮文庫） 大岡山図書館B1F-一般図書 810.2/M（太田出版） すずかけ台図書館2F-一般図書 810.2/M（新潮文庫）</p>	
<p>柳田国男の方言圏論は「かたつむり」が「でんでんむし」「マイマイ」「ツブリ」「ナメクジ」など日本列島を同心円上に分布することを説いたのであるが、この本は「アホ」は関西、「バカ」は関東、ではどこから「アホ」は「バカ」に変わるのか？ その境界線はどこに引けるのかを大まじめに説いた書である。</p>	

90	山久瀬洋二『言い返さない日本人』（IBCパブリッシング）
大岡山図書館B1F-一般図書 361.42/Y 大岡山図書館B2F-語学・留学用資料 361.42/Y すずかけ台図書館2F-語学・留学用資料 361.42/Y	
<p>This book may look like a simple and simplistic bi-lingual primer for businessmen about differences between practices and expectations in Japan and Euro-America, but it is a lot more than that. The author's explanations of culturally bewildering behaviour and attitudes are far from simplistic; they are given for the most part in considerable detail and express the culturally 'common-sense' understanding of situations from both Japanese and 'Western' perspectives. This book should be compulsory reading for anyone intending to be active in business and internationally-framed projects, for Japan and Japanese are almost always involved, so there is always potential for the sorts of misunderstandings analysed here. The parallel Eng-J text is very helpful for our 1st year students.</p>	
91	水村美苗『増補 日本語が亡びるとき—英語の世紀の中で』（筑摩書房）
大岡山図書館B1F-一般図書 810.4/M すずかけ台図書館2F-一般図書 810.4/M	
<p>21世紀にあって全ての言語は「普遍語」としての英語とそれ以外のローカル語に二分されつつあります。本書は日本語をテーマとしていますが、その射程は日本語にとどまるものではなく、「英語の世紀において、英語を母語としない人々は自国語／母語とどのように付き合っていくべきか」という普遍的な問いに通じています。英語が嫌いな学生、英語帝国主義的な状況に疑問を覚えたことのある全ての人に強くお勧めします。</p>	

●見て、感じて、創る ――「想像力」って何？

92	伊藤亜紗『目の見えない人は世界をどう見ているのか』（光文社新書）
大岡山図書館B1F-一般図書 369.275/I 大岡山図書館B1F-「東工大先生の本」文庫 369.275/I すずかけ台図書館2F-「東工大先生の本」文庫 369.275/I	
視覚障害者がどのように世界を認識しているのか、インタビューをもとに構成した身体論。障害者とは、健常者が使っている能力を使わず、健常者が使っていない能力を使っている人。耳や手で「見る」彼らのやり方を知ること、世界の全く別の顔が見えてくる。	
93	岩波書店編集部編『カラー版 本ができるまで』（岩波ジュニア新書）
大岡山図書館B1F-一般図書 022/I すずかけ台図書館2F-一般図書 022/I	
本とは収められたコンテンツだけでなく、印刷された紙を束ねたモノとしても存在している。本書では、技術的な視点からグーテンベルク以来の本作りの歴史とともに、現代において本がどのように出来るかが概観される。紙とインクなどの素材が組版、印刷、製本といった作業をへて形をなしていくようすを知ること、本に対する新たな視点が得られるだろう。	
94	高根正昭『創造の方法学』（講談社現代新書）
大岡山図書館B1F-一般図書 301.6/Ta すずかけ台図書館2F-一般図書 301.6/Ta	
知的生産のために必要な科学的な方法論を、筆者の留学時代の体験談なども交えながら解説している方法論を概観した入門書です。	

95	Chim ↑ Pom 『芸術実行犯』 (朝日出版社)
大岡山図書館B1F-一般図書 704/C すすかけ台図書館2F-一般図書 704/C	
<p>一見チャラそうなルックスでありながら、被爆やフクシマの問題に真っ正面からぶつかってきたアーティスト集団chim ↑ pom。自身の活動について等身大の言葉で語りながら、社会のさまざまなタブーに切り込む。難解なアートがとってもし身近に見えてくる本。</p>	
96	フィリップ・K・ディック 『パーマー・エルドリッチの三つの聖痕』 浅倉久志訳 (ハヤカワ文庫)
大岡山図書館B1F-一般図書 933.7/D すすかけ台図書館2F-一般図書 933.7/D	
<p>「哲学」は分析し過ぎると対象を破壊し尽し、分裂と孤立と不安を生み、逆に「宗教」は理性の及ばない全体性をもって、人間の深い根っこの存在を抑えてしまう。こう考えて悩む人々にとり、「哲学」と「宗教」の「間」には、それらを媒介する決定的な何かがある筈だ。古典古代においてはそれはストア主義であったし、現代においてはそれに替わるものは精神分析あるいはSFであろう。このドラッグ小説は生まれてこのかた数十回は読んでいて、そのたびに圧倒され、自分の存在を根底から揺り動かされてしまう。(ついで、いつもこれが映画化されていない理由を考える。というのも、知り合いの高名な大学教授は、私の知る限り、『ブレードランナー』を36回見ている、「36回目に初めて、あるシーンの背景に小さく映った絵が神護寺仙洞院の伝源頼朝像だと気付いた」、とっていたからだ。)</p>	
97	原研哉 『デザインのデザイン』 (岩波書店)
大岡山図書館B1F-一般図書 757.04/H すすかけ台図書館2F-一般図書 757.04/H	
<p>無印良品や長野オリンピック、銀座松屋のイノベーションなどに関わってきた著者が実体験を元に語るデザイン論。素材の性質や機能を検討し、あたりまえのことを疑い、社会とのつながりを考慮する。デザインの発想はあらゆる学問や物作りのヒントになるはずです。</p>	

98	岡壇『生き心地の良い町』（講談社）
大岡山図書館B1F-一般図書 368.3/O すずかけ台図書館2F-一般図書 368.3/O	
<p>生き心地の良い町の特徴はどういうものだろうか。本書は、日本でもっとも自殺の少ない町に着目し、町の歴史から地理的特性、そして住民気質についてインタビューや統計データに基づいて分析した成果をまとめたものである。「生き心地の良い」社会のあり方を考えるきっかけとなるばかりでなく、仮説のたて方から、それを実証していく研究プロセスそのものも興味深い。</p>	

99	東田直樹『跳びはねる思考』（イースト・プレス）
大岡山図書館B1F-一般図書 914.6/H すずかけ台図書館1F-ペリパトス文庫：和書 914.6/H	
<p>This is a set of short essays and interviews with a young man who suffers severe autism but now is known throughout Japan for his writings, and who has also recently become known in Europe and the USA through the enormous success of a translated volume. The essays give insight into not only the subjective world of a “disabled” person, but also contain many ideas and observations about human society and life that are of relevance for all readers. It is well known that there are students at Titech with Asperger’s syndrome and even borderline autism spectrum disorders. Reading this short work would be of considerable value for all our students, enriching their knowledge of the range of human experience but also deepening their capacity for compassion.</p>	

100	ヘルダー『彫塑』（『世界の名著 続7』所収 中央公論社）
大岡山図書館B1F-一般図書 080/Se/73 ※6月から貸出可能です	
<p>人でも建物でも、形あるものを夢中で眺めたり作ったりしたことのある人は、その体験の奥行を著者と語り合ってみよう。物が単なる物以上になる秘密。この本を単純に面白いと思えたら、哲学の大きな流れに立っている。</p>	

101

和辻哲郎『古寺巡礼』（岩波文庫）

大岡山図書館B1F-一般図書 121.6/W/2（和辻哲郎全集）
 大岡山図書館B1F-一般図書 702.1/W（岩波文庫）
 大岡山図書館B1F-一般図書 918.6/H/35（ふるさと文学館）
 大岡山図書館B1F-文庫・新書 080/Ia/144（岩波文庫）
 ずずかけ台図書館2F-一般図書 702.1/W（岩波文庫）

和辻哲郎は哲学者。本書は、彼が20代のころ、友人とともに奈良付近の古寺を見物したときの印象記だ。著者自身が言うように、「古美術の研究は自分にはわき道」なのだが、その「わき道」の幅の広さに驚嘆させられる。

102

**菅野恵理子『MIT マサチューセッツ工科大学 音楽の授業
—世界最高峰の「創造する力」の伸ばし方』（あさ出版）**

大岡山図書館B1F-一般図書 760.7/Su
 ずずかけ台図書館1F-ペリパトス文庫：和書 760.7/Su

マサチューセッツ工科大学（MIT）は創立時から人文学、社会科学などのリベラルアーツ教育を重視している。音楽や演劇などの芸術教育も近年ますます充実してきており、全学部生4000人のうち1500人が音楽科目を履修している。そのMITの音楽の授業について詳しく知ることができる。理論も実践も学べるのが特徴で、文化・歴史、作曲・理論、音楽テクノロジー、演奏実技（パフォーマンス）など領域も多岐に亘っている。音楽を学ぶことが多様な人間、文化、社会を理解し、創造性を高めることにつながり、芸術とテクノロジーのコラボレーションがイノベーションを生み出していることが感じられる。

●生きて、愛して、旅をする ――「人生」って何？

103 **W・T・ガルウェイ、E・ハンゼリック、J・ホートン『インナーゲームオブストレス：内面の障害に打ち勝つ!』姉齒康訳、後藤新弥監修（日刊スポーツ出版社）**

大岡山図書館B1F-一般図書 498.39/G
すずかけ台図書館2F-一般図書 498.39/G

W. Timothy Gallwey with Edd Hanzelik and John Horton, The Inner Game of Stress: Outsmart Life's Challenges and Fulfill Your Potential, New York, Random House, 2009.
1974年に出版されて以来、同著者の『心で勝つ！インナーゲーム』は様々な分野で最高峰を目指す人たちに愛読されてきた。『インナーゲーム』の理念に2人の医師の知識を加えた本で、ストレスに負けない技術を教えてくれる。

104 **セルジュ・ティスロン『レジリエンス―こころの回復とはなにか』阿部又一郎訳（文庫クセジュ、白水社）**

大岡山図書館B1F-一般図書 146.2/Ti
すずかけ台図書館2F-一般図書 146.2/Ti

昨今、困難な状況をのり越え、不都合な環境のなかで自らを構築し続ける能力であるレジリエンスという概念が様々な領域で注目されています。本書ではレジリエンス研究の歴史をふり返り、この言葉の定義や使用法をめぐるさまざまな相違点について知ることができます。

105 **ボブ・ディラン『ボブ・ディラン自伝』菅野ヘッケル訳（SB クリエイティブ）**

大岡山図書館B1F-一般図書 767.8/D
すずかけ台図書館2F-一般図書 767.8/D

ボブ・ディランがノーベル文学賞を受賞したのは、彼の書く歌詞が文学的だったからではない。フォークからロックへ、カントリーからゴスペルへ、更にここ数年はスタンダード・ナンバーを歌ってみたりと、常に表現者としての自らを更新し、再生し続けるその生き様、人生そのものが全ての芸術家の導きとなるような存在なのだ。

106	<p style="text-align: center;">高野和明『幽霊人命救助隊』 (文春文庫)</p> <p>大岡山図書館B1F-一般図書 913.6/Ta すずかけ台図書館2F-一般図書 913.6/Ta</p> <p>自殺を題材にした小説で、自殺して幽霊となった4人の主人公が今まさに自殺しようと悩んでいる人を助けるというストーリーだ。生きることは今悩んでいることよりもずっと大切なことと思知らされる。</p>
107	<p style="text-align: center;">辻邦生『生きて愛するために』 (中公文庫)</p> <p>大岡山図書館B1F-一般図書 914.6/Tu すずかけ台図書館2F-一般図書 914.6/Tu</p> <p>著者は、大病を経たことにより、それまでのロマン派的感性を克服し、地上に存在する森羅万象と積極的に交流し、一体化することによって、生きる喜びを十全に享受すべきだと自らの経験を例に読者に自覚を促す。そして具体的な生の素晴らしさ=奇跡を語る様々なエッセーを通して、死という虚無に囲まれた、ただ一回限りの地上の生を本気で生きるべきだという覚悟を、達意の文で優しく穏やかに主張する。最終章の三つの啓示は、特に印象深い。</p>
108	<p style="text-align: center;">灰谷健次郎『天の瞳』 (角川文庫)</p> <p>大岡山図書館B1F-一般図書 913.6/H/1a ~913.6/H/5 ※6月から貸出可能です</p> <p>主人公の倫太郎が幼少期から成長する姿を色々な人との関わりを通して描かれている。人との関わりの中で成長すること、人との繋がりの大切さを実感する。連作ものだが、是非読んで欲しい。</p>
109	<p style="text-align: center;">チャック・パラニューク『ファイト・クラブ』 (Fight Club) 池田真紀子訳 (ハヤカワ文庫NV)</p> <p>大岡山図書館B1F-一般図書 933.7/P すずかけ台図書館1F-ペリパトス文庫：和書 933.7/P</p> <p>それなりに大人になり、仕事だって持っている不自由しない生活を送っている。でも、どうにも生きているという実感が湧かないのはなぜだろう？現代人が生きているという実感を本当に得たければ、渴望しているならば、「ファイト」だけが己を救う道だ。本書『ファイト・クラブ』は、そしてタイラー・ダーデンはそう僕達に語りかける。「怖じ気づいてどん底まで落ちられないなら」と前置きし、「そいつは絶対に真の成功を手にはできない」(p.97)と断じるタイラーの思想はセクシーだがギラギラした危険に満ちている。そして、全ての参加者が夜を徹して対等に素手で殴りあう闇のクラブが設立された時、自分も社会も心地よく崩壊し始めるのだ。自分を規定しようとする世界の枠組みに疑問を持っている人、自分の不器用さに自己嫌悪を感じている人にこそ、原作小説・映画版ともにお薦めしたい。鬼才デヴィッド・フィンチャー監督による同名タイトルの映画版はめくるめく映像と思想の洪水を伴い、常に僕らに獰猛なファイトをしかけてくる。</p>

- 110 平田オリザ『わかりあえないことから——コミュニケーション能力とは何か』(講談社現代新書)**
 大岡山図書館B1F-一般図書 361.45/H
 すすかけ台図書館1F-ペリパトス文庫:文庫・新書 361.45/H
- コミュ障、人見知り、口下手……。色々な表現があるものの、他人との対面での会話が苦手だと思っている人は案外多い。演劇を専門とする著者が、様々な切り口から人と人との相互のやり取りについて掘り下げてくれる。
-
- 111 ジェイムズ・ヒルマン『魂のコード——心のとびらをひらく』鏡リュウジ訳(河出書房新社)**
 大岡山図書館B1F-一般図書 146.1/H
 すすかけ台図書館2F-一般図書 146.1/H
- ames Hillman, *The Soul's Code: In Search of Character and Calling*, New York, Grand Central Publishing, 1996.
- ユング派心理学の立場からガンディーやヒトラーなど過去の有名な人物の人格を分析しながら、我々にも偉大な可能性を秘めている「どんぐり」が生まれつきあると主張する。環境にも遺伝にも定められない自分を見つけられるかも知れない。
-
- 112 ヘルマン・ヘッセ『シッダールタ』高橋健二訳(新潮文庫)**
 大岡山図書館B1F-一般図書 943.7/H(新潮文庫)
 大岡山図書館B1F-一般図書 948.78/H/12(ヘルマン・ヘッセ全集)
 大岡山図書館B1F-文庫・新書 080/Ie/435(岩波文庫)
 大岡山図書館B1F-リベラルアーツ資料 943.7/H(新潮文庫)
 すすかけ台図書館2F-一般図書 908/Ti/A62(筑摩世界文学大系)
 すすかけ台図書館2F-リベラルアーツ資料 943.7/H(新潮文庫)
- 厳しい修行に精進し、悟りを得ようとした主人公が、結局そのモノローグ的限界を知り、むしろ自らの狭隘な自我=小我の殻を破碎・放下し、瞬間、瞬間新たに生成する開かれた世界をあるがままに受容することを認識し、自己を解放・再生するプロセスが凝縮して物語られる。最後の、生命の音楽である、せせらぎによる千の声=宇宙に遍満する無限のコトバを、ポリフォニー的に響かせる川との交感シーンが圧巻。
-
- 113 星野道夫『旅をする木』(文春文庫)**
 大岡山図書館B1F-一般図書 295.3/H
 すすかけ台図書館1F-ペリパトス文庫:文庫・新書 295.3/H
- 写真家、探検家でもある著者が、アラスカの自然、動物、出逢った人々について静かで温かな言葉で綴った33篇のエッセー集。生命に対する優しく澄んだ深い眼差しと、自身の生き方への思いが随所にちりばめられている。

114	美馬のゆり『理系女子的生き方のススメ』（岩波ジュニア新書）
	大岡山図書館B1F-一般図書 407/M すずかけ台図書館2F-一般図書 407/M
<p>タイトルの「理系女子的」は「リケジョ的」と読みます。「的」がついているのがミソで、これは理系女子だけに向けた本ではありません。「リケジョ的生き方」とは、「自分のやりたいことを見つけて、まわりを巻き込みながら、楽しく生きる生き方」のことであり、男女問いません。好奇心をもって「何か変だな、不思議だな」と感じ、「なぜ？ どうして？」を論理的・分析的に考え、まわりを巻き込みながら「じゃあ、それ、変えてみよう」と行動する。そのような著者の生き方をとおして、これからの大学生活にパワーをくれる一冊です。女子学生はもちろん男子学生にもおすすめします。</p>	
115	宮本輝『青が散る』（文春文庫）
	大岡山図書館B1F-一般図書 913.6/M/1, 913.6/M/2 すずかけ台図書館2F-一般図書 913.6/M/1, 913.6/M/2
<p>主人公が大学時代にテニスに打ち込む姿を描いた青春小説だ。学生時代の恋や友情なども盛り込み青春時代の色々な迷いや想いが描かれている。ひとつのことに打ち込むことの素晴らしさを感じることができる。</p>	
116	オスカー・ワイルドほか『ゲイ短編小説集』（平凡社ライブラリー）
	大岡山図書館B1F-一般図書 933.78/G 大岡山図書館B1F-文庫・新書 080/H/315 すずかけ台図書館1F-ペリパトス文庫：文庫・新書 933/W
<p>男性同性愛を題材としたイギリス短編小説のアンソロジー。と言っても、明確に男性同士の性愛が描かれた作品ばかりが収められているわけではない。どれか一篇を読んだ後、監訳者の大橋洋一の解説に目を通して見てほしい。目から鱗が落ちるような体験ができる。同じく平凡社ライブラリーに入っている『レズビアン短編小説集』、『クィア短編小説集』もお薦め。</p>	

117

Albom, Mitch, Tuesdays with Morrie: An Old Man, a Young Man, and Life's Greatest Lesson. New York: Anchor Books. 1997.

大岡山図書館B1F-一般図書 837.7/A

すずかけ台図書館1F-ペリパトス文庫：文庫・新書 837.7/A

Mitch Albom reconnected with his sociology professor Morris (Morrie) Schwartz after seeing him on the television program "Nightline" with Ted Koppel. After learning that Morrie was dying of Amyotrophic Lateral Sclerosis (ALS), Mitch met with Morrie every Tuesday, just as he did when he was a student at Brandeis University. However, this time, Mitch traveled from Michigan to Morrie's house in Massachusetts for a course on "The Meaning of Life." This book recounts their discussions on topics such as love, fear, family, forgiveness, community, and most importantly, death. Morrie, the "Coach," imparted knowledge and wisdom to his student and friend, Mitch: Life boils down to loving each other, engaging in one's community, and living for a purpose. Fame, work, and money are secondary to the vital aspects of life. May we find truth in Morrie's words.

118

Fritz, Mark, The Truth About Getting More Done. Upper Saddle River, New Jersey : FT Press, 2009.

大岡山図書館B1F-一般図書 159.4/F

すずかけ台図書館2F-一般図書 159.4/F

There's always so much to do and not enough time! How can we get more done within the allocated timeframe? Do we need to manage our time better? How do we cut out extraneous activities? The author outlines 42 "truths" on how to have a more efficient and effective life, giving us insight into what and where to focus our energy. In short, Mark Fritz tells us to define what success means to us in order to attain a life that we want, creating a visible path for it. Then, believe that you can achieve it.